

かごしま つるまる じょう れきし 鹿児島(鶴丸)城の歴史

History of Kagoshima (Tsurumaru) Castle

가고시마(쓰루마루)성의 역사

鹿児島(鶴丸)城的历史

鹿児島(鶴丸)城的历史

かごしまじょう
鹿児島城は、慶長6(1601)年頃、のちに初代藩主となる島津家久(第18代当主)が建設に着手した城で、鶴丸城の名で親しまれています。築城当初は、背後の山城(城山)に本丸、二之丸を置き、麓には屋形を置いて藩主の居所としていました。また、平城の三方は堀に囲まれていました。これは、島津氏が鎌倉時代からの守護として、山城と屋形で構成される城館という武家の伝統や格式を重んじて築城したものです。江戸時代の後半になると、本丸、二之丸は麓の居所を指すようになります。

明治初期に記された成尾常矩指図によると、本丸には大小100以上の部屋があったとされています。そのなかには能舞台もあり、平成26(2014)年度の発掘調査では、その一部が見つかりました。また、平成29(2017)年度の発掘調査では、庭園の一部と思われる配石などが見つっています。



▲ 明治5(1872)年の鹿児島(鶴丸)城



▲ 「天保年間鹿児島城下絵図」(部分)